

現状と課題のまとめ

(資料1-4)

基本目標	現行計画(2014～)における目標達成状況及びその他取組状況	市民の意識調査結果		社会状況	施策
		市民	事業者		
エネルギー	<p>【目標達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ エネルギー消費量・温室効果ガス排出量については、家庭・業務部門における取組の強化なしには目標達成が極めて厳しい状況である。 □ 太陽光発電システムの導入件数は目標未達成だが、着実に増加している。 <p>【目標達成に向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 家庭でのライフスタイルや事業活動でのビジネススタイルの転換を強化する必要がある。 □ 再生可能エネルギーの積極的な導入、省エネ機器等への更新・導入、住宅の断熱化を進める必要がある。 <p>【その他取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 吹田市地球温暖化対策新実行計画(すいたんのCO2大作戦)の改訂(2016) □ エコオフィスプランの改訂(2019) □ 再エネ比率の高い電力の調達(2017) □ 市有施設の屋根貸しによる太陽光発電システム設置促進事業(2015) 	<p>□エコ活動の取組状況(今後も取組まない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビを省エネモードに設定 ・冷蔵庫の季節に応じた温度設定 ・エネルギー使用量の比較 <p>⇒理由なし、手間がかかる、効果が低い</p> <p>□エコ設備の利用状況</p> <p>→LED照明を利用している市民が多い</p> <p>⇒導入可否の重要項目として、初期費用を挙げる市民の割合が高い</p> <p>□将来世代として必要な施策(環境問題全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化、気候変動問題 ・エネルギー問題 <p>□将来世代として必要な施策(エネルギー問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備の省エネ化 ・スマートシティ ・再エネ推進 ・エネルギーに関する研究 	<p>□ 温室効果ガス削減目標を今後とも検討しないと回答した事業者が約半数</p> <p>□ RE100の認識が低い</p> <p>□環境基本計画推進のための重要項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮設備の導入費用の補助 	<p>□ 気候変動によるリスクを抑制するために、世界の気温の変化を2℃以内にとどめ、1.5℃以内に抑える努力を追求する。(パリ協定, 2015)</p> <p>□ 工業化以前に比べて、人間活動により約1℃世界平均気温は上昇した。地球温暖化は現在の度合いで続けば、2030年から2052年の間に1.5℃に達する可能性が高い。(IPCC特別報告書, 2018)</p> <p>□ エネルギー基本計画(2016)</p> <p>□ 第五次環境基本計画(2018)</p> <p>□ 地球温暖化対策計画(2016)</p> <p>⇒温室効果ガス削減目標： 26%減(2030), 80%減(2050)</p> <p>□ 熱中症患者7,000人以上(大阪府:2018)</p> <p>□ 大規模災害時におけるエネルギー問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 施策の柱として、 ・ライフスタイルや事業活動の転換促進 ・省エネルギー機器等の導入促進 ・再生可能エネルギーの導入拡大 <ul style="list-style-type: none"> □ 環境に配慮した行動の普及促進 □ 計画書制度導入等の事業者への取組 □ 省エネルギー機器導入策の検討など市民に向けた取組 □ RE100に向けた取組 □ 再生可能エネルギーと蓄電池を利用した非常用電源の確保
資源循環	<p>【目標達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 家庭系ごみの年間排出量は目標達成 □ 市民1人当たりのごみの排出量、リサイクル率、ごみ年間焼却処理量及び事業系ごみの年間排出量については、目標の達成が難しい状況である。 <p>【目標達成に向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 目標達成のため以下の取組が必要である。 ・食品ロスの削減 ・マイバットの推進 ・雑がみ等の資源ごみの分別排出の徹底 ・再生資源集団回収の活性化や溶融スラグの資源化促進 ・多量排出を行う事業者への指導・啓発 <p>【その他取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 吹田市一般廃棄物処理基本計画の改訂(2017) □ 北摂地域におけるマイバットの持参促進及びレジ袋削減に関する協定(2018) 	<p>□将来世代として必要な施策(ごみ問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・容器包装の削減 ・ものを大切に使う ・産業育成 ・環境教育 	<p>□ 資源分別等に取り組んでいるが、廃棄物ゼロに取り組む事業者は少ない</p>	<p>□ 廃プラスチック問題</p> <p>□ 第五次環境基本計画(2018)</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ プラスチックごみを含むごみ減量に関する啓発活動 □ 食品ロスに関する取組 □ 雑がみを含む再資源化の促進
生活環境	<p>【目標達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 環境汚染防止対策については、監視体制の充実や市民、事業者への啓発活動の推進により、着実に施策や取組が進んでいる。 □ 熱帯夜日数は目標達成 □ 透水性舗装面積は目標達成 <p>【目標達成に向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 引き続き、きめ細やかな規制や誘導、啓発が必要である。 □ 今後も公共空間の美化、住環境の向上に向けて、市民、事業者との連携・協働による取組を継続する必要がある。 □ 夏場における省エネルギーを推進するとともに、建築物・道路・駐車場の蓄熱抑制化など、地域特性に応じた具体的な施策や取組を進める必要がある。 <p>【その他取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 吹田市環境美化に関する条例の改正(2015) 	<p>□環境に対する満足度</p> <p>→夏場の暑さ・水辺空間に対する満足度が低い</p>		<p>□ 都市部特有の課題であるヒートアイランド現象</p> <p>□ 熱中症患者7,000人以上(大阪府、2018年)</p> <p>□ 第五次環境基本計画(2018)</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 環境汚染の監視しつつ、環境汚染の防止について啓発 □ 下水道の高度処理化や水辺空間の保全を図る □ ヒートアイランド現象の緩和方法の啓発やアスファルトの蓄熱対策や節エネによる排熱軽減

基本目標	現行計画(2014～)における目標達成状況 及びその他取組状況	市民の意識調査結果		社会状況	施策
		市民	事業者		
みどり・自然共生	<p>【目標達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 緑あふれる未来サポーター制度(公園)は目標達成 <input type="checkbox"/> 緑化路線延長累計は目標達成 <p>【目標達成に向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 質及び量の双方を重視した緑化を推進する必要がある。 <p>【その他取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 吹田市第2次みどりの基本計画の改訂(2016) 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> エコ活動の取組状況(今後も取組まない) <ul style="list-style-type: none"> ・庭木や家庭菜園 ⇒手間がかかる <input type="checkbox"/> 市民にとっての大切な環境 <ul style="list-style-type: none"> → みどり豊かな空間 <input type="checkbox"/> 吹田市の環境取組についての認知 <ul style="list-style-type: none"> → 「たけのご掘り」等のイベントや緑あふれる未来サポーター制度の認知度が比較的高い。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 生物多様性に関する取組を実施する事業者が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 生物多様性国家戦略(2012) <input type="checkbox"/> 第五次環境基本計画(2018) 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> みどりの基本計画に基づく量的向上 <input type="checkbox"/> 地域循環共生圏構築に向けた取組を通じた市民及び事業者への生物多様性に関する啓発
都市環境	<p>【目標達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 市民向けの公共交通マップの作成・配布などの啓発取組によりコミュニティバスの利用人数は年々増加傾向である。 <input type="checkbox"/> 移動経路のバリアフリー化率については、増加傾向にあるものの、目標達成が厳しい状況である。 <p>【目標達成に向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> バリアフリー化については加速度的に取組を進める必要がある。 <input type="checkbox"/> 引き続き、すまいる条例や環境まちづくり影響評価条例等の制度を積極的に運用し、効果的に誘導することが必要である。 <p>【その他取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 環境まちづくりガイドライン【開発・建築版】の改訂(平成30年度版) 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 環境に対する満足度 <ul style="list-style-type: none"> → 道路空間に対する満足度が低い <input type="checkbox"/> 環境基本計画推進のための重要項目 <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮したまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 環境基本計画推進のための重要項目 <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮したまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 第五次環境基本計画(2018) 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 条例やガイドラインの周知徹底による環境に配慮したまちづくりの推進 <input type="checkbox"/> 歩行者・自転車が安心して歩行・通行できる空間の創出
複数分野に係る項目		<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 環境基本計画推進のための重要項目 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対する環境教育 <input type="checkbox"/> エコ活動の取組状況(今後も取組まない) <ul style="list-style-type: none"> ・環境イベント等への参加 ・美化活動等のボランティア活動の参加 <p>⇒時間がかかる、手間がかかる、理由なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> SDGsの認識が低い <input type="checkbox"/> 環境基本計画推進のための重要項目 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対する環境教育 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> SDGs(2015) 	<p>→分野横断的戦略「はぐくむ」</p>